

04.集合住宅と運河



アムステルダムは、地図を見て想像していた景色よりも運河が多く、道と道の間に運河が入り込みまるで犇めき合っている様だった。国土の多くが河口流域の海を埋め立てた成り立ちも理解できる。

移動の際、運河を見ずに歩くことは、出来ず、そこに浮かべたハウスボートで生活している人も多い。それだけこの運河と生活との関わりは強い。古い住宅群は、運河・道路に面して同じ建物高さで整然と建ち並び、運河を見下ろし、棟飾り部に牽引用のフックが必ず設置されていた。運河・荷物の搬入・生活と深い関りが感じ取れる。

余談だが、このエリアは、建物が古く埋立ての為、傾いた建物を修理している光景をよく目にした。近年の低層の住宅群は、より水辺の近く設置され、プライベートな船着場などは、より鮮明な位置付けとなっていた。又、オランダの集合住宅の特徴として、日本と異なり、大げさなエントランスホール・ラウンジ等は無く、国民柄なのか、コンパクトに造られ機能優先している様に思えた。どちらかと言うと、長屋に近い住宅形態が多い様に思えた。

中高層の住宅群は、コートハウスの様な囲まれた内部空間が設置され、外観も色使いに富んで、デザイン的にも好感の持てる建物が多かった。

石川 清郁